

1 教科について

国 語

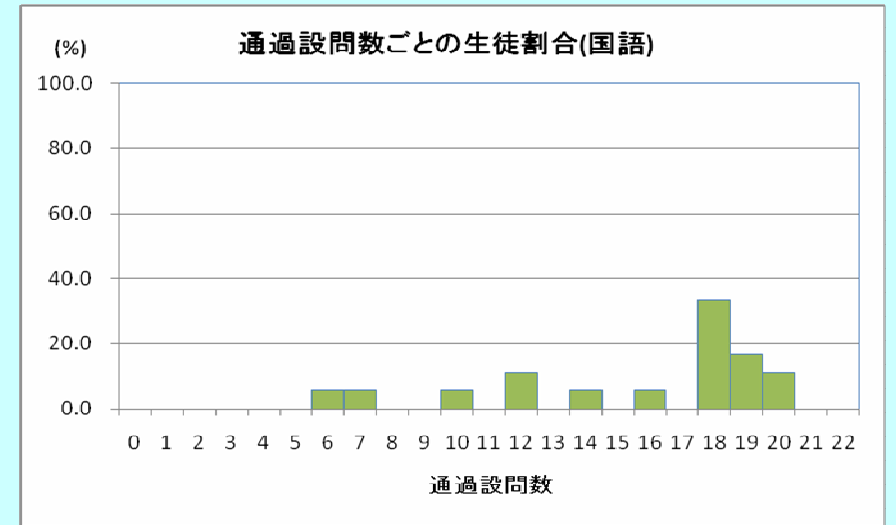
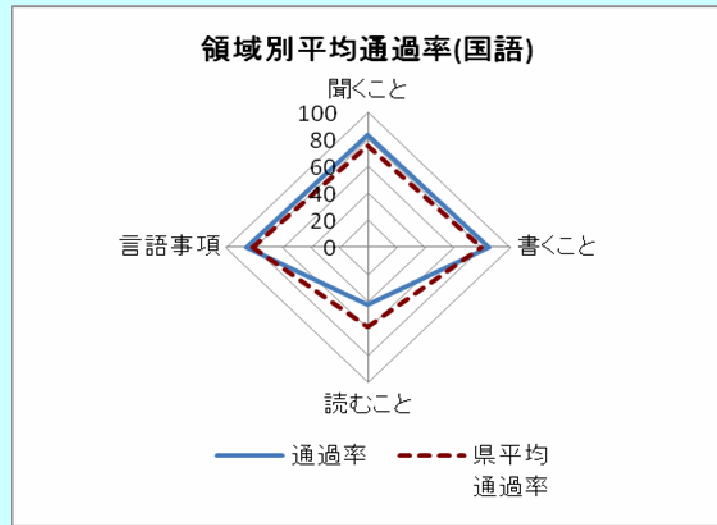
昨年度の課題

- ◎4領域の中では、「書く」領域が63.0%と最も低かった。無回答率も高く、基本的な構成に沿って「書く」ことが苦手な生徒が多い。
- ◎「登場人物の心情の把握」や「要旨の把握」の通過率が低く、相手の立場に立って考えることやその考えを論理的に表現することが課題である。
- ◇「文脈の中における語句の意味」や「漢字の成り立ち」についての理解に不徹底な部分がある。

昨年度の課題を受けて  
具体的に取組んだ事項

- ① 「書くこと」において、基本的な構成に沿って、意見を支える適切な理由を整理することを意識して文章を書くなどの指導の機会を増やす。
- ② 「読むこと」の指導において、ワークシートやノートの整理を通して、「文章の構成・展開」や「登場人物の心情」等を論理的にとらえられるよう、書かれている内容を整理して読み進める学習活動を工夫する。
- ③ 言葉への関心を高め、小学校での学習をもとに、辞典利用の習慣化や漢字練習の徹底を図るとともに、「表現の仕方」をとらえる中で活用できる力の伸長を図る。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **70.7%** 県平均 **73.2%**



重点課題 ◎: 「基礎・基本」定着状況調査  
◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎「登場人物の心情の把握」「文脈上の語句の理解」の通過率が低く、相手の立場に立って考えることやその考えを論理的に表現することが課題である。
- ◎「文章の展開」や「段落相互の関係」の把握の通過率が低く、文章の展開を正確にとらえることに課題がある。
- ◎「漢字の読み書き」の徹底を図り、読書の取組と並行して、語彙力の伸長を図りたい。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 「読むこと」の指導において、ワークシートやノートの整理を通して、「文章の構成・展開」や「登場人物の心情」等を論理的にとらえ、自分の言葉で表現できるよう、工夫・改善する。
- ② 言語事項における知識内容を、技能面とあわせて系統的に指導することによって、理解・習熟の状況の徹底・改善を図る。
- ③ 全体と部分、事実と意見の関係を正しく「聞くこと」を意識させ、場面に応じた内容についての聞き取りテストを定期的実施し、問いに対する適切な応答の表現を身につけさせる。
- ④ 言語活動の充実を図るため、事実と意見・感想の違いを意識した小作文、時・場・相手・状況を考えた話し方を中心に指導する。

来年度の目標値

- 通過率50%以下の生徒が1割を超えないようにする。また、全体の通過率が70%以上になるようにする。
- 「書くこと」に関する領域で、今年度よりも上回るように努力する。

# 指導方法等の改善計画について

## 数 学

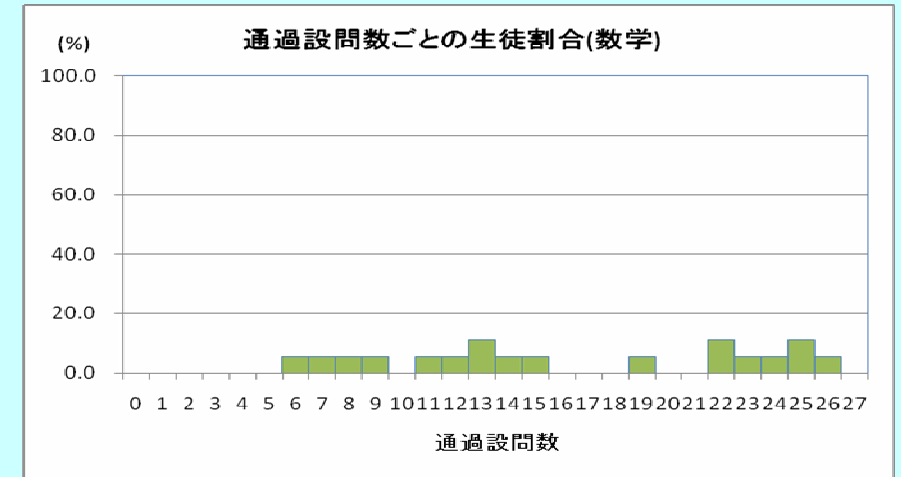
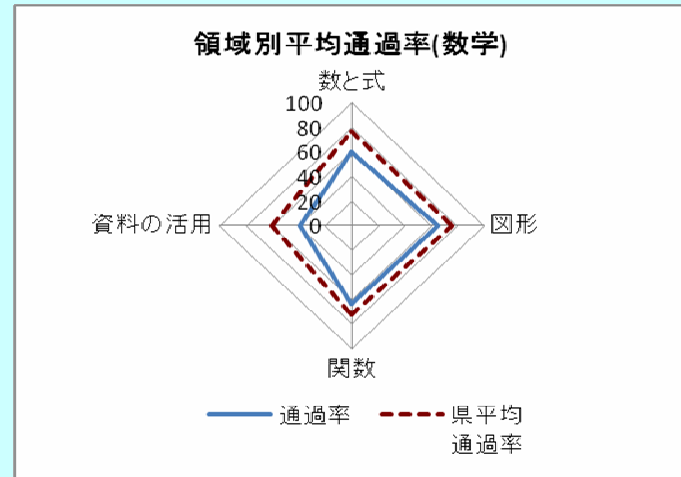
### 昨年度の課題

- ①数と式の問題で、数の大小関係を説明すること、文字式を読むこと、関係を文字式で表すことにつまずいている。
- ②度数分布表から全体に対する割合を求める、2つのグラフを関連付けて考えることができにくい。
- ③数学Aの、円柱の体積を求める問題で正答率が低かった。

### 昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

- ① 数の大小関係を、例をあげて説明できるよう指導する。また、文字式の便利さに気づき積極的に文字式を活用できるように、また書いて発表する学習活動になるように授業を改善する。
- ② 身近にある度数分布表やグラフを題材に、興味・関心を持たせて資料の活用ができるように指導内容を改善する。
- ③ 面積や体積の計算では、立体模型や展開図を利用して理解・活用できるように小学校での学習を復習しながら丁寧に指導する。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **60.5%** 県平均 **74.7%**



### 重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査 ◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎ 数と式の領域において、数量の関係を文字を用いた式で表したり、文字式の意味を読み取ったりすることが難しい。また、文字を用いた式の計算、方程式が定着していない。
- ◎ 2つのグラフを関連付けて考えることが難しい。
- ◎ 相対度数の意味が理解できておらず、度数分布表から相対度数を求めることができない。

### 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 具体的な場面で、いろいろな数の延長として文字式を用いて表すことを繰り返す中で、文字式の意味を理解させ、文字式を用いることのよさを実感させる経験を多くさせる。また、文字式の計算、方程式については、文字の意味を理解させ、定着するまで繰り返し練習をさせる。
- ② 身近な題材を取り上げ、縦軸と横軸を工夫しながらグラフに表す活動を繰り返し行うことにより、グラフに興味関心をもたせる。また、グラフの特徴に着目し、グラフの中から必要な情報を取り出して理由をつけて、グラフの中からわかることを言葉で表現させる活動を行うことにより、グラフを読み取る力をつける。
- ③ 相対度数の意味、求め方を教え、身近な題材において、度数分布表に表したり、相対度数を求める活動を繰り返し行うことで活用させ、定着をはかる。
- ④ 計算力の向上のため、繰り返し練習をさせるとともに、数学的な考え方、特に数量関係に重点を置き指導する。

### 来年度の目標値

- 県平均との差を10ポイント以内にする。
- 通過率30%以下の生徒の割合を0にする。

# 指導方法等の改善計画について

## 英語

### 昨年度の課題

- ① 「書くこと」の通過率が低く、基本文型の習得に課題があった。初歩的な表現を用いて、場面に応じた文を書くこと、英文のつながりを考えて書くことが苦手な生徒が多かった。
- ② 話の流れをつかみながら、代名詞の中身を理解して、内容を的確に読み取る力が弱い。
- ③ 「読むこと」において、be 動詞と一般動詞の使い方の違いや、それぞれの肯定文・疑問文・否定文の表現方法の習得が十分でない。

### 昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

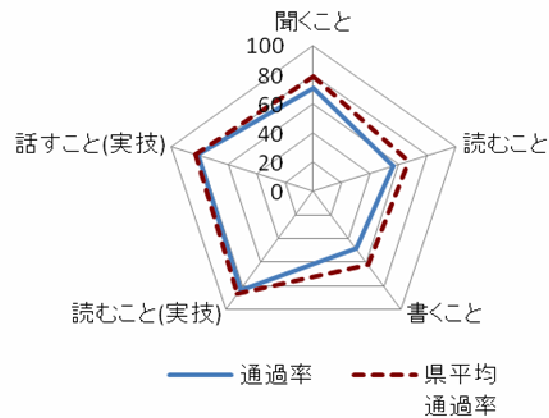
- ① 「書くこと」において、定着させたい基本文型や重要文型を使って、自分の考えや気持ちなどが読み手に伝わるように、また前後のつながりを考えて、代名詞を使うことを意識させながら英文を書くように指導する。
- ② 基本文型をくり返し練習し、授業内容や家庭学習の課題の見直しをする。特に、be 動詞と一般動詞の違いを意識させながら、肯定文・疑問文・否定文も含めて、反復練習をする機会を数多く与える。また、自然にフレーズが出てくるように音読や口頭練習を徹底させる。

### 「基礎・基本」定着状況調査通過率

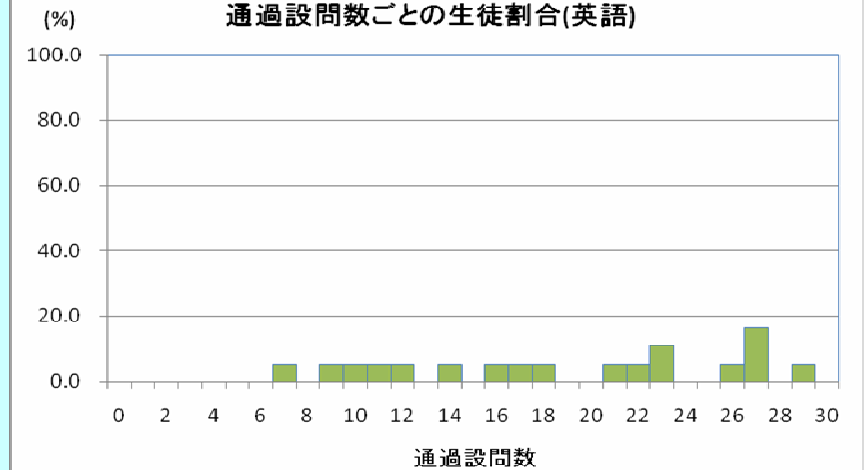
学校平均 **62.8%**

県平均 **71.9%**

領域別平均通過率(英語)



通過設問数ごとの生徒割合(英語)



### 重点課題

- ◎ : 「基礎・基本」定着状況調査
  - ◇ : 全国学力・学習状況調査
- ◎ 「書く」領域が 48.4% と最も低く、基本文型の習得に課題がある。初歩的な表現を用いて、場面に応じた文を書くこと、または、相手にわかりやすく伝えるために、英文のつながりを考えて書くことが苦手な生徒が多い。
  - ◎ 通過率が低かった問題の共通点は、疑問詞 what を用いて「何をするか」「何をしたか」をたずねる疑問文を作る問題である。
  - ◎ 代名詞を使う際に、前後のつながりを考えながら英文を書くことが苦手である。

### 重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

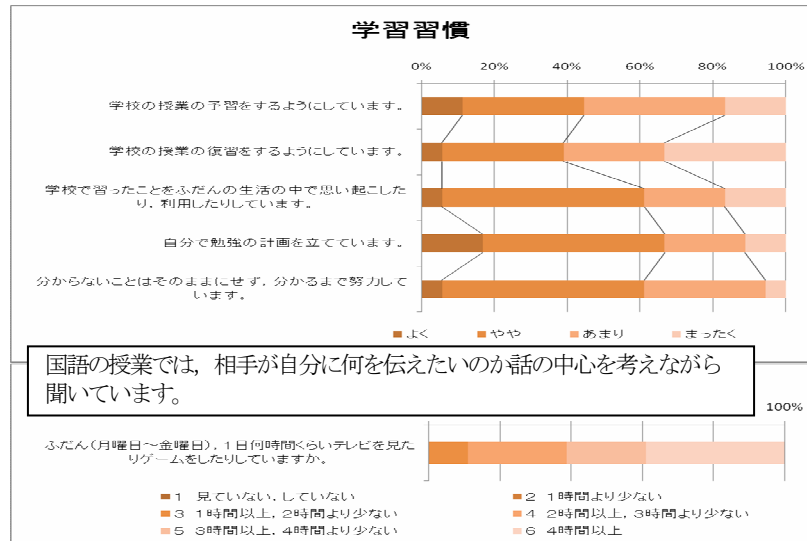
- ① 「書くこと」において、基本文型の習得に重点をおき、特に be 動詞と一般動詞の違いを意識させながら、それぞれの肯定文・疑問文・否定文の反復練習をする機会を数多く与える。学んだ文法をくり返し練習し、自然にフレーズが出てくるように音読や口頭練習を徹底させる。
- ② Yes-No で答えることのできる疑問文だけではなく、ペアでの会話や自己表現等で、疑問詞を使った疑問文を使う機会を増やしていく。
- ③ 自分の考えや気持ちなど読み手に伝わるように、また前後のつながりを考えて、代名詞を使うことを意識させながら英文を書くように指導する。

### 来年度の目標値

- 通過率 40% 以下の生徒が 1 割を超えないようにする。また、全体の通過率が今年度よりも上回るようにする。
- 「書くこと」に関する領域で、今年度よりも上回るように努力する。

2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査, 生徒質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：学校質問紙, 生徒質問紙)

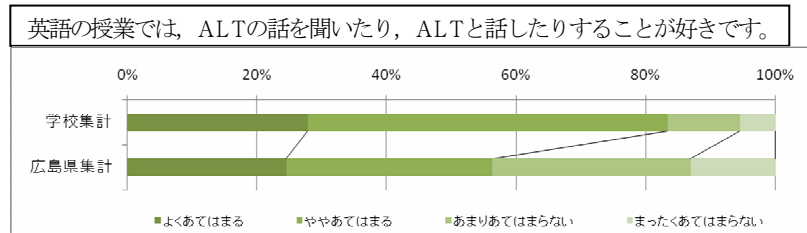
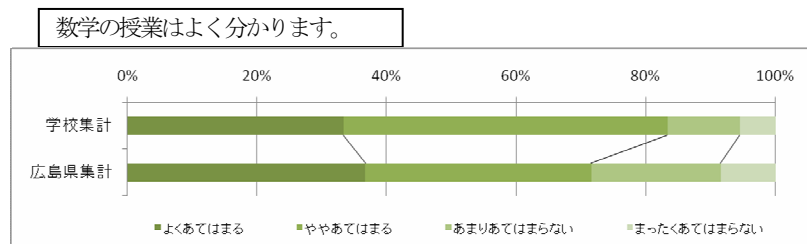
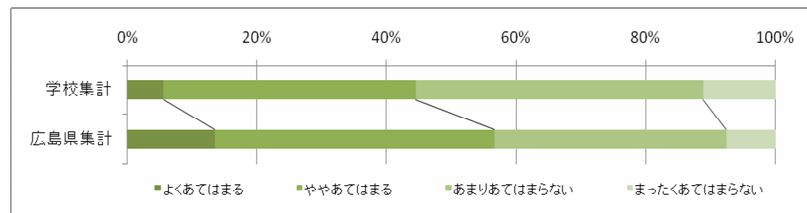
(1) 生活・学習



改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎学習習慣の領域全体での意識は、低くはないものの、「学校の授業の復習をするようにしている。」と答えた生徒の割合は38.9%であった。また、ふだんの家での学習時間が30分より少ない生徒の割合が55.6%、ふだんのテレビやゲームの時間が3時間以上の生徒の割合は61.1%であり、家庭学習の習慣が身につけていない。	・各教科での課題を設定し徹底するとともに、家庭との連携を深めることで、家庭学習の習慣を身に付けさせる。また、キャリア教育を通し将来設計を考える中で、自分の将来を見すえ、現在の生活や学習の状況を改善できるように指導する。

来年度の目標値	目標値
	・「家で復習をする」生徒の割合を50%以上にする。 ・「ふだん家で1時間以上学習する」生徒の割合が県平均を上回るようにする。

(2) 教科



	生徒の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎「聞く」「話す」「書く」のそれぞれの場面で、「伝えたいことを中心」に対する意識が弱い。 ◎学習・読書の習慣が低く、言葉への関心が弱い。「話す」「書く」活動を通して、適切な言語技術を活用する機会を増やすなどの、授業の工夫・改善が必要である。	・授業における学習活動を見直し、個別の課題設定など意欲につながる工夫を組み入れるとともに、反復学習の徹底を図る。 ・毎時間のねらいを明確にし、ワークシートやノート整理の機能化を図り、達成度が振り返られるように工夫する。 ・適切な受け答えの徹底を図るとともに、語感を磨く。
数学	◎数学の授業はよくわかると答えた生徒の割合は、8割を超え、授業に意欲的に取り組もうという姿勢はみられるが、家庭学習の時間が極端に少ないため、学力が定着しにくい。 ◎自分の考えを理由をつけて説明することが難しい。説明しやすくさせるための指導の工夫が足りなかった。	・家庭学習の必要性をわからせるとともに、授業における達成課題をより具体的にすることにより、学習意欲を高め、達成感を持たせる。 ・授業中に、より多くの練習問題に取り組ませ、同様のプリントを家庭学習の課題として与えることにより、抵抗感を減らすよう努める。 ・授業の中で、与えられた話型を示し、自分の考え方や解き方を説明させる機会を取り入れる。
英語	◎英語の授業は、他の教科や生活の中で役に立つという意識はあるが、英語の勉強や授業に対する意欲は高くない。学習活動では、ALTと話したり、ペアやグループで活動することは好きであるが、単語や文をくり返して練習するというような習得に時間のかかる活動には、意欲的に取り組むことが難しい。	・授業の活動内容を見直し、意欲につながるような授業の組み立てを図るために、ALTとの授業の内容を充実させる。 ・毎時間の授業のねらいを明確にし、個々の活動に対しても、具体的な目標を設定し、達成度を示すことで、授業の個々の活動に対する意識付けを行う。
来年度の目標値	・全体の通過率が70%以上になるようにする。 ・「聞く」「話す」活動の充実を図り、「聞くこと」の領域の通過率が、今年度を上回るようにする。	

# 指導改善のための実施スケジュール

